



函館線 余市～小樽間はバスで合意

# 巨額赤字 苦渋の転換



協議後、余市～小樽間のバス転換合意について説明する(左から)迫俊哉小樽市長、道の柏木文彦交通企画監、斉藤啓輔余市町長＝26日、小樽市役所

## 余市～小樽バス合意

【小樽】2030年度末の北海道新幹線札幌延伸に伴いJR北海道から経営分離される並行在来線の函館線長万部～小樽間(140.2キロ)のうち、残っていた余市～小樽間(19.9キロ)が26日、バス転換で決着した。鉄道存続の巨額赤字が強調される中、存続を訴えてきた後志管内余市町はバスの利便性向上や交通拠点整備を道に迫り、実を取る形で妥協を取った。だが、将来も住民の足を確保できるのか。苦渋のバス転換は、道や地元で重い課題を改めて突き付けている。

## 道路・拠点整備で協議決着

【小樽】2030年度末の北海道新幹線札幌延伸に伴いJR北海道から経営分離される並行在来線の函館線長万部～小樽間(140.2キロ)のうち、残っていた余市～小樽間(19.9キロ)が26日、バス転換で決着した。鉄道存続の巨額赤字が強調される中、存続を訴えてきた後志管内余市町はバスの利便性向上や交通拠点整備を道に迫り、実を取る形で妥協を取った。だが、将来も住民の足を確保できるのか。苦渋のバス転換は、道や地元で重い課題を改めて突き付けている。

【小樽】2030年度末の北海道新幹線札幌延伸に伴いJR北海道から経営分離される並行在来線の函館線長万部～小樽間(140.2キロ)のうち、残っていた余市～小樽間(19.9キロ)が26日、バス転換で決着した。鉄道存続の巨額赤字が強調される中、存続を訴えてきた後志管内余市町はバスの利便性向上や交通拠点整備を道に迫り、実を取る形で妥協を取った。だが、将来も住民の足を確保できるのか。苦渋のバス転換は、道や地元で重い課題を改めて突き付けている。

### 北海道新幹線の並行在来線



## 道と9市町きょう決定

## 余市～小樽バス合意

【小樽 余市】2030年度末の北海道新幹線札幌延伸に伴いJR北海道から経営分離される並行在来線の函館線長万部～小樽間(通称「山線」)のうち、余市～小樽間のバス転換が26日、合意され、沿線では通勤や通学、観光の利便性低下などさまざまな影響を懸念する声が上がった。「住む人も訪れる人も減るのではないか。地域の先細りへの不安は尽きない。」



## 通学、観光に影響懸念

「住む人も訪れる人も減る」

小樽市の迫俊哉市長と余市町の迫俊哉市長と余市町の齊藤啓輔町長、道の柏木文彦交通企画監、道の齊藤啓輔町長は協議後の記者会見で「バスは速達性の確保と新たな交通の拠点・ネットワーク整備について、最大限努力すると道の確保を得る。鉄道をやめても便益が下がる、むしろ住民や来訪者の利便性向上も可能になるのではないか」と転換を受け入れた理由を説明した。

「バスの速達性の確保と新たな交通の拠点・ネットワーク整備について、最大限努力すると道の確保を得る。鉄道をやめても便益が下がる、むしろ住民や来訪者の利便性向上も可能になるのではないか」と転換を受け入れた理由を説明した。

## 津波避難場所 見直し苦慮



## 高層の施設少なく 新設には財源課題

【小樽】津波避難場所の見直し作業が本格化する中、高層ビルなどの施設が少ないことが、新たな避難場所の新設に大きな課題となっている。市役所では、高層ビルなどの施設が少ないことが、新たな避難場所の新設に大きな課題となっている。

浸水想定道内最大の苦小樽市